

あんぜん・あんしん マニュアル

Vol.2

保育時のリスクマネジメント



はじめに

安全・安心な『地域保育』を子育て家庭に提供するためには、保育を提供する人の質（クオリティ）を高める必要があります。保育サービスは、手にとって触れられる形のある商品とは異なっており、代金を支払う前に確認できるものではありません。利用者となる子育て家庭に保育の品質の善し悪しを利用前に見定めていただくことは、ほぼ不可能です。

大切な子どもを生まれて初めて他人に預けることに対して、多くの保護者が不安感を持ちます。だからこそ地域保育に携わる人は、常に安全な保育を約束することが求められます。

安全な保育を心がけることは当然のことですが、心がけだけでは事故は防げません。それは実生活の中に、あらゆる危険が潜んでいるからです。しかし、あらゆる危険を回避することや、危険を最小限に食い止めることは可能です。危険を回避することを可能にする方法が、リスクマネジメントです。

リスクマネジメントができる保育提供者へと成長していただくことにより保育の質が大きく変わります。そして保護者とのコミュニケーション内容が充実したものになることで、より質の高い保育が実現できます。

本書では、子育て支援の一環である『地域保育』に携わる全ての方を対象に「保育時のリスクマネジメント」を深く理解していただく事を目的にマニュアルとしてまとめました。

子育てしやすい社会環境づくりの一環として、安全・安心な質の高い保育サービスを提供できる子育て環境の充実をめざして参りましょう。



もくじ

1. 安全・安心のリスクマネジメント 保育サービス提供前にできること 2	5. 緊急事態の対応 1 緊急対応フロー 18 2 報告の義務 18 3 損害賠償保険制度の活用 19 4 サポート体制づくり 19
2. 事故の想定とリスクマネジメント 1 天災と災害 3 2 交通事故 4 3 貴重品紛失 6 4 危険物による事故 8 5 発病と投薬による事故 10 6 保育環境や体制不備による事故 11	6. 事故例から学ぶリスクマネジメント 1 屋外での事故例と事故防止 公園でのけが 20 路上でのけが 22 運転中のけが 23 2 室内での事故例と事故防止 扉付近でのけが 24 落下や転倒のけが 26 食事準備中と食事でのけが 28
3. 保護者との契約 1 信頼関係の構築 13 2 報告・連絡・相談 14 3 守秘義務 15	まとめ 発生事故やけがの原因から学ぶ 保育環境の整備 30 私の「ヒヤリ・ハット」MEMO 32
4. 保育中のヒヤリ・ハット 1 リスクマネジメント 16 2 ヒヤリ・ハット 17 3 情報提供と享受 17	

1 安全・安心のリスクマネジメント

保育サービス提供前にできること

地域保育提供者は、子どもの命を預かる重い責任をおいます。

保護者からの信頼を得ることは非常に難しく、時間もかかります。しかし、信頼を損ねるのはたやすいものです。地域保育提供者の気の緩みや、一瞬の不注意が原因で信頼を失います。

子どもと保護者からの信頼を失うことが無いようにするため、保育サービスを提供する前に安全・安心の対策を万全にすることが求められます。

さて、皆さんは保育中にヒヤリ・ハットしたことはありませんか……。子ども、保護者、環境、時間帯などの条件が変わり、保育中のシチュエーションも異なると発生するヒヤリ・ハットは多種多様です。ヒヤリ・ハットから事故につながるリスクを低める安全対策の基本は意外にも共通しています。リスクを低くするために、日々の反省と安全確保の取組みが必要です。

ヒヤリ・ハット体験から得た経験を生かし、創造力を働かせて安全対策の実施をすることで事故のリスクを低めます。『ヒヤリ・ハットを見逃さず、繰り返さない。』そうした強い心がけを持ちましょう。そして、あらゆる情報に敏感になり、経験からも学びとる姿勢を心がけていきましょう。

保育サービスを提供する前に、想定できる事故発生の要因に対する対応方法などを思い描き、保育時間中の流れ全体をシミュレーションすることを習慣づけましょう。想定外の事故が発生しないように、保護者とは、事前に念入りな打ち合わせをすることも大変重要です。

2 事故の想定とリスクマネジメント

1 天災と災害

[火事]

火元が自分の居場所(家)とは限りません。両隣または近隣で火災が起きる可能性もあります。

[地震]

日本国中いつ、どこで、地震が発生するか、予測不可能です。

[天候]

落雷や竜巻、突風、洪水は、地球温暖化の影響で日本でも多く観測されています。



事故の想定

子どもが昼寝中に保育を放棄して、その場所を離れ、銀行やスーパーなどへ外出した時に、天災や災害の被害に遭う。

実際に災害に遭い、恐怖で一杯となり、子どもを置き去りにする。

リスクマネジメント

保育中はいかなる理由があっても、子どもを置き去りにして、現場を離れては絶対にいけません。

保育する子どもの人数はいつも厳守しましょう。

外での用事は、子どもと一緒に外出をして用事を済ませるようにしましょう。

緊急時に、すぐ避難できる体制が取れるよう、定期(毎月がベスト)訓練を実施しましょう。

緊急時の保護者との連絡方法については、定期的にきちんと確認しておきましょう。

避難時の防災頭巾や防火用シートを用意しましょう。また、消火器や防災用品の取扱いを身に付けましょう。

ニュースや天気予報を必ず確認してから、外出する習慣を身に付けましょう。

2 交通事故

[車]

自動車を運転している時は、どんなに注意していても他の車が追突してくる可能性があります。

[電車・バス・タクシー他]

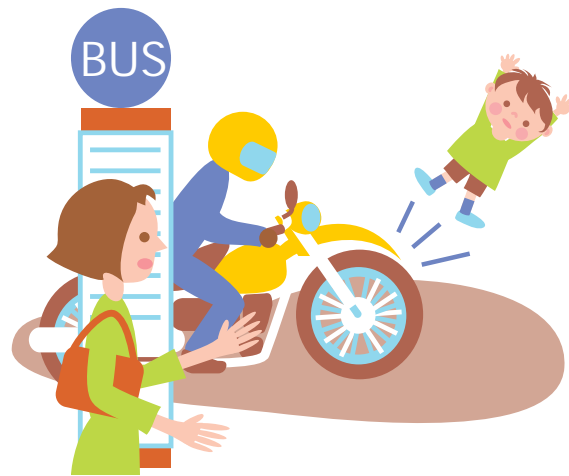
電車やバス、タクシーに乗降する時には様々な事故が起きる可能性があります。

事故の想定

自家用車に子どもを乗せて走行中、信号が青から黄色に変わりつつあったので安全運転のつもりでブレーキを踏んだら、後方車が速度を落としきれず追突してきた。



ホームで電車を待っている時に、子どもとはぐれてしまい、乗降の際に後ろから押され転倒した。



バス停で子どもとバスを待っていた時、時刻表の確認をしようとして一瞬子どもの手を離してしまった。その際に子どもが道路に飛び出し、交差点を曲がってきたバイクと衝突。

リスクマネジメント

乗り物への乗降時は、子どもから目を離さず、手をつないで落ち着いて行動するよう注意しましょう。迷子にさせないように常に子どもの歩調に合わせて移動しましょう。

自家用車を使用する際は、保護者の同意書が絶対に必要です。同意書が無い場合は、自家用車の使用を中止しなくてはなりません。

自家用車を使用する際はチャイルドシートを用意し、必ず使用しましょう。

運転中は、前後左右の車のスピードやブレーキ速度もきちんと確認しましょう。

公共の交通機関を利用する際は、混雑した場所や時間帯を避けるように、保護者と相談しましょう。

2 事故の想定とリスクマネジメント

3 貴重品紛失

[宝石・貴金属]

めずらしいものやきれいなものに興味を持つ子どものいたずらが原因で、保護者の宝石や貴金属を持ち運び、隠してしまったり、ゴミ箱に捨ててしまう事があります。

[現金・キャッシュカードなど]

現金が入った財布や封筒を置き忘れる保護者がいます。また、現金がいくらあったかを記憶していないケースがあります。

事故の想定

保護者が洗面台にダイヤ入り指輪を置き忘れたまま外出。子どもが手洗いた折に指輪を手にしておもちゃ箱に入れてしまった。保護者が帰宅後、指輪が盗難にあったとして警察に通報された。



現金が入っている財布を外出時、たんすの上に置き忘れた保護者。財布を取りに帰宅し、財布の中身を確認した保護者が3万円不足しているという。

リスクマネジメント

地域保育提供者が利用者の家を訪問する時は、できるだけ荷物を少なくし、大きなバックやポーチ類を複数持参することは避けましょう。

貴重品の取扱いや保管について、十分に保護者へ説明をしましょう。

保護者には毎回貴重品の出し忘れがないか確認をとりましょう。

保護者の外出後、貴重品の置き忘れやしまい忘れに気がいたら、即刻保護者に連絡をとり、貴重品の置き忘れについて伝え、保管場所を指定してもらいます。

貴重品を預かり保管する際は、必ず簡単な封筒や透明ビニール袋に入れて、紙封筒の場合には中身の品物名を表書きし、返却の際は直接手渡ししましょう。

4 危険物による事故

[危険物]

はさみやカッターナイフ、縫い針、包丁類、
工具、薬品類は身近な凶器となります。

事故の想定

床の隅に画びょうが落ちていた。子ども
が部屋の隅に来た時、画びょうを踏みつ
けて、けがをする。

漂白剤を洗面所に出し忘れ。手洗いにき
た子どもが、ジュースと思って誤って飲
んでしまう。



しまい忘れのライ
ター。子どもが折
り紙に着火してし
まう。



風邪薬の錠剤が入
ったピンをテーブルの上に置いたまま。
子どもがお菓子と勘違いして食べてしま
う。

ストーブのまわりで子どもがはしゃいで
いるときに体に触れ、やけどをする。



リスクマネジメント

子どもと過ごす部屋の床や棚の上はすっきり清掃しましょう。

危険物が床に落ちている可能性があるので、四つん這いになり部屋の隅々
をチェックしましょう。

はさみの使用中は、絶対に子どもの手元から目を離さないよう注意しまし
ょう。使用後の後片付けはすばやくしましょう。

液体洗剤や薬品類などの危険物を収納している引出しや棚は子どもの手で
開けられないようにしましょう。

マッチやライターは、子どもの目に触れないよう保管しましょう。

ストーブや暖房器具を使用する場合は、子どもの手や体が直接触れないよ
うに囲いのガードを厳重にしましょう。

石油やガスを燃料とするストーブの使用はやめましょう。

5 発病と投薬による事故

[発病]

子どもは突然、発熱、嘔吐や下痢をすることがあります。

[投薬]

保護者の判断で、子どもに薬を飲ませよう依頼されることがあります。

事故の想定

子どもの発熱に気がつかないでいたら、突然発作を起こし救急車で運ばれた。

子どもの病状を医者に診断してもらわず、薬局で買った塗り薬を持参した保護者。発疹の原因はわからないまま、薬を塗る。薬を塗ったら発疹が悪化した。



リスクマネジメント

子どもの健康状態が優れず顔色が悪い場合には、そのまま放置しないで、医者に連れて行きましょう。

普段に比べ元気や食欲が無い、ぐずるなどの様子が伺えたら、体温測定をしましょう。体温が平熱より高く37度以上ある場合は、保護者へ連絡を取り主治医の診察を打診しましょう。

保護者からの依頼で投薬を引き受ける場合は、同意書を必ず交わしましょう。

薬を安易にあずかり、子どもに投薬することは絶対にしてはいけません。必ず医師の指示を確認してからにしましょう。

6 保育環境や体制不備による事故

玄関



事故の想定

子どもが開閉した扉に別の子どもが指をはさみ、骨折。

子どもが引出しを開けて、おりがみを出そうとしている横から別の子どもが引出しを勢いよく閉めた。子どもの指がはさまれ爪がはがれる。

リスクマネジメント

子どもが安易に扉の開閉をできないように、扉は開け放したまま固定する。

訪問先では、扉付近に子どもが近寄らないように配慮する。

扉を開け放したままとなるよう紐か簡易ストッパーでしっかりと留める。

引出しの開け閉めをする際には、子どもに付添う。

引出しに子どもの手が挟らないようにゆっくり開閉をする。

玄関の段差から落ちることもあるので厚手のマットを敷く。

玄関の入り口に柵をつける。

子どもの手で開閉できないように玄関の扉や窓は鍵を二重ロックする。

リビングルーム



事故の想定

部屋を走り回ってはしゃいでいた子どもが転倒し、テーブルの角におでこをぶつけ額の皮膚が裂ける。

リスクマネジメント

家具の角には安全防止のカバーを取り付ける。

訪問先では、角が気になる家具の周りで遊ばせないよう配慮する。

ベランダ



事故の想定

ベランダから地上へ転倒し、落下。

リスクマネジメント

ベランダのドアは開け放したりせず、子どもの手で開かないよう二重ロックをする。

ベランダには踏み台となるものを置かない。部屋とベランダの窓には柵を設置する。

キッチン



事故の想定

台所へ侵入して料理中の鍋に手をかけ、やけどを負う。

冷蔵庫を開けて、調味料類を飲み込み気管をつまらせ、窒息。

リスクマネジメント

台所に子どもが入れないよう柵を設置する。

冷蔵庫や戸棚は物色すると危険なものであるのでロックする。

2 事故の想定とリスクマネジメント

ベッドルーム



事故の想定

ベットやソファでジャンプして転倒した時にテーブルに頭を打ち付けたり、足を骨折する。

リスクマネジメント

ベビーベットには必ず柵を使用する。
ベットやソファには立ち上がらせない。

バスルーム・洗濯機



事故の想定

倒った風呂桶に頭から転倒し、溺れる。
お風呂に入浴中、シャワーのお湯でやけどする。
洗濯機の中を覗き込み頭より転落、少量の水を飲み溺れる。

リスクマネジメント

バスルームや洗面所などへは直接出入りが出来ないように、外鍵をつける。
バスタブや洗濯機を子どもが覗くと危険なので、水を張りっぱなしにしない。
バスタブや洗濯機は、必ず蓋をした状態にする。
入浴の際には、シャワーや風呂桶のお湯の温度に注意する。
入浴の際は、お湯の温度を確認してから使用する。

トイレ



事故の想定

便器を覗き込み、滑って頭が水につかり溺れる。
トイレの鍵が開かなくなり、閉じ込められる。

リスクマネジメント

トイレに行く際は、子どもに必ず付き添う。
トイレにドアストッパーや外鍵をつけ、外からでも鍵が開錠できるようにする。
ドアの鍵は子どもの手が届く位置よりも、高めの場所にとりつける

複数名の子どもを保育

事故の想定

子どもが他の子どもに噛まれ負傷。
子どもが他の子どもに右腕を強く引っ張られ右肘を脱臼。

リスクマネジメント

子どもたちの間に入りながら保育する。
少し乱暴なタイプの子どもの聞き分けのできない子どもに出来るだけ多く寄り添い注意をむける。
全体の子どもの動きや行動を把握し、少々時間でも子ども達から目を離さない。
一人で保育する子どもの人数制限を守る。

3 保護者との契約

1 信頼関係の構築

不信感

[第一印象]

保護者からの信頼を得るにはどのようにしたらよいでしょうか。
はじめての顔合わせや保育の際に、親からどのような印象をもたれるか、皆さん自身の

保護者や子どもへの接し方が、非常に重要になります。地域保育者としてふさわしい人物かどうかを見極められるので、不信感を持たれる言動は避けましょう。

信頼できないと判断される想定

髪型、化粧、香水、マニキュア、アクセサリー、服装、履物など、保育にふさわしい身支度が整っていない。
保護者からの保育の依頼内容を聞いていない。
約束時間を守らない。
愛想がなく、むっつりしている。



リスクマネジメント

保育をする際には、清潔感のある身軽な服装をしましょう。
保護者からの申し送りをメモにとり、依頼された内容を復唱して保護者へ安心感を与えましょう。
時間厳守です。約束の時間の5分～10分前には、保護者から子どもをお預かりできる体制を整えましょう。
笑顔で保護者と子どもに接しましょう。

2 報告・連絡・相談

正確な情報

[報告]

保護者は、保育中の出来事や子どもの様子については、要点を押さえた正確な報告を望みます。

[連絡]

子どもの様子がおかしい時や緊急を要する場合は、連絡をとりましょう。

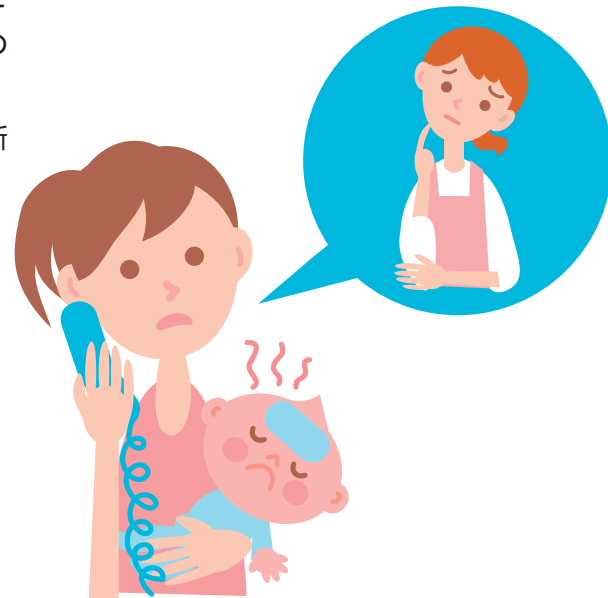
[相談]

子どもへの対応方法は、子どもへの影響を考慮し、全て保護者の判断が必要です。

トラブル発生の想定

保育中の子どもの様子についての報告をしないで、保護者へ返した後、子どもの体調が悪くなった。

保育中に子どもが転んだ。保護者に無断でシップを貼ったら皮膚がかぶれた。



リスクマネジメント

保護者とは、できるだけきめ細かい情報を交換しましょう。

保育中に保護者への確認をおこたって、勝手な思い込みや判断をしないよう注意しましょう。

3 守秘義務

個人情報保護

[保護者や子どもの情報の取り扱い]

信頼を得られるようになると、親子関係や子どもの教育、身体に関することなど様々な相談をもちかけられる事もあります。

生活の様子や趣味、信仰している宗教など、子育て家庭の様々な情報を知りえることがあります。

契約解除の想定

地域保育提供者が聞いた保護者の秘密を、第三者に話した事を知ると、保護者との信頼関係はその時点で壊れます。



リスクマネジメント

保育を引き受ける前に、守秘義務に関する事柄について確認をおこないましょう。個人情報に関する守秘義務契約を交わすことで、保護者が安心するケースがあります。また、守秘義務契約を交わすことで地域保育提供者としての心構えができます。

4 保育中のヒヤリ・ハット

1 リスクマネジメント

従来の事故防止活動は、事故原因を【人がおこしたミス】と捉え、防止方法として【人がミスをしないよう管理する】ことに重点がおかれてばかりで事故原因の究明がおろそかにされてきました。

リスクマネジメントとは、新しい事故防止活動の手法のことです。「人は誰でも必ずミスをする」を前提とし、人にミスをさせる原因を含めた全ての事故原因を究明し除去する活動をおこないます。また、人がミスをして

も事故につながらない仕組みを作るのがリスクマネジメントです。

『地域保育』は、子どもの生活や活動を支援する仕事なので、子どもの生活や活動そのものに伴うリスクは避けられないことがあります。完璧な事故防止活動をしていても全ての事故を防ぐことは、不可能です。

そこでリスクマネジメントでは、【防ぐべき事故】と【防げない事故】を区分し、防ぐべき事故に防止対策を行います。

事故防止活動の対象になる過誤

過失のある事故（責任が問われる事故）とは、危険の予測ができるような場合に、その事故の回避措置を怠っていて事故に至るケースです。

回避できない事故とは、リスクマネジメントを生かし、あらゆる事故防止に対応していたにもかかわらず事故に至るケースです。



2 ヒヤリ・ハット

おきてしまった事故や過去の事故例を【防ぐべき事故】と【防げない事故】に区分します。過失のある事故は、【防ぐべき事故】として、回避できない事故は【防げない事故】に分類するために、過失の有無を5段階で判断します。

1. ルール違反が原因
2. ミスが原因
3. 基本的な事故防止対策で防げるもの
4. 高度な技術や特殊な知識を必要とするもの
5. どうしても防げない事故

1.~3.は未然に事故の予見をし、回避しなくてはなりません。子どもを保育する際にルール違反や事故防止対策を怠ると地域保育

3 情報提供と享受

ヒヤリ・ハットしたことや実際におこった事故例を念頭において、リスクマネジメントをすることは、保育サービスの質の向上を補完していきます。

危険を回避しようとするあまり、子どもを公園などに行かせないとか、外への散歩を禁止することや工作などではさみやクレヨンなどの道具を使用させない等、こどもの成長発達に必要な体験そのものを制限してしまうことがあってはいけません。やるべき安全対策

提供者として責任が問われます。

地域保育提供者として、子どもの命を預かる責任の重い任務であることを再認識しなくてはなりません。事故につながらないで済んでいる日常のヒヤリ・ハットを見逃すことがないように、事故の予見と事故防止の対応策をしっかり立てましょう。



を施して、子どもが十分に活動できるように、配慮することが求められます。

地域保育提供者の仲間や子育て家庭の保護者とも頻繁に安全対策のための情報を交換し、日常的なヒヤリ・ハット情報の提供や享受をおこたらないようにしましょう。

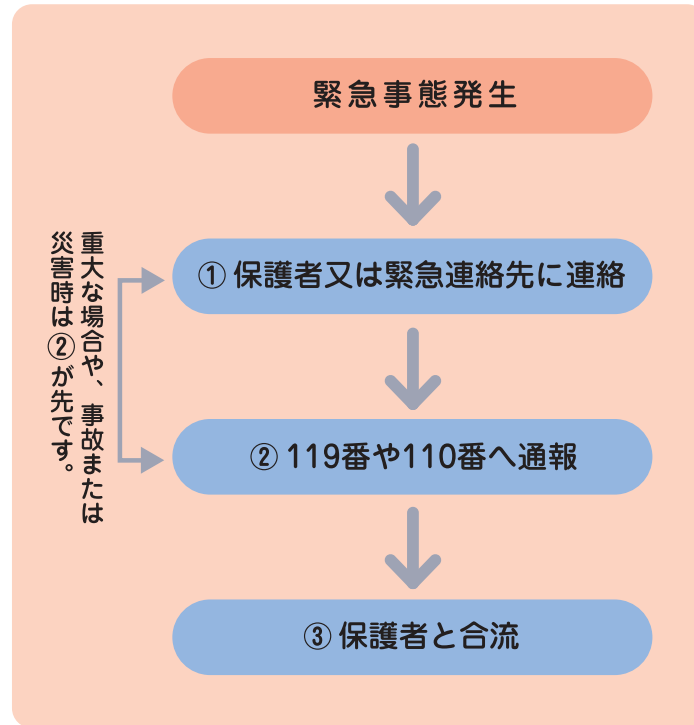
そうした情報の共有化は、子どもの安全と保護者への安心のためだけではなく、地域保育提供者としての自分自身の身を守ることに繋がります。

5 緊急事態の対応

1 緊急対応フロー

地域保育提供者は、災害時、保育中の体調不良および事故発生時などの緊急時における連絡経路を明確にし、保護者への周知を徹底しなくてはなりません。

災害時を想定した避難経路や保護者との合流場所などは、保育の開始前に必ず保護者と確認をしましょう。



2 報告の義務

保育をおこなう際には、その都度必ず、保育中の出来事をレポート形式にまとめましょう。子どもを保護者にお返しする際には、レポートをお渡しして、保護者のサインをもらうことが重要です。

保育中にレポートする内容は、時間ごとに記入するのが良いでしょう。

1. 排泄の様子
2. 食事・おやつの内容
3. 午睡・睡眠の時間や様子
4. 活動 遊びや会話

5. 健康状態や機嫌 体温計測した場合は、熱について

6. その他 特別の出来事

保護者は、保育中の子どもの様子を把握することで、引き続き子どもの健康管理や生活リズムをスムーズに運べるようになります。

子どもの体調の変化や、けがをした場合は、その時の様子を正確にレポートをする必要があります。緊急事態が発生した場合は、時間帯や熱などは簡単なメモ程度で良いので、必ず正確な記録をとるようにしましょう。保育

が終了し、一段落ついた時点で、その日の出来事を忘れないうちに出来るだけ早くレポートにまとめ、書面にしておくことが重要です。保育中の出来事を正確に保護者に報告する

ことは、地域保育提供者の義務です。どのような理由があっても、いい加減な虚偽の内容を報告することがあってはいけません。

3 損害賠償保険制度の活用

地域保育提供者を雇用または登録する団体や事業者は、万が一の事故に備えて損害賠償保険に加入しています。

補償の範囲は、死亡補償、傷害補償、損害賠償、お見舞い金、入院給付金などです。

万が一、不慮の事故が発生した場合は、事故の状況により異なりますが、その賠償金額を地域保育提供者ひとりで支払うことが不可能な金額に及ぶ可能性も予見できます。また、事故のケースによっては、地域保育提供者に

過失が無い場合でも事故にあった子どもの保護者が納得せずに、地域保育提供者個人を裁判に訴える可能性も無いとは限りません。そのような不幸な事態になった場合には、裁判で潔白を証明するための弁護士費用などが発生します。最悪な事態に備えるために、損害賠償保険制度を上手に活用することは、地域保育提供者として欠かせないリスクマネジメントになります。

4 サポート体制づくり

緊急事態が発生した場合に、すみやかに緊急対応できるサポート体制を常に確認しましょう。

緊急事態の対応フローを作成していても、いざという時にそれが機能しなければ意味がありません。

自分の家で保育する【在宅保育】の場合

1. 家族に地域保育の理解と承諾を得る。
2. 自宅周辺の近隣住民などの協力がえられるように日常的に交流を心がける。

3. 近隣の地域保育提供者の仲間と定期的に連絡を取り合い、緊急事態発生時の協力体制について相談しておく。

子育て家庭で保育する【訪問保育】の場合

1. 保護者の指示に従い、サポート体制について保育の前に打ち合わせをしておく。
2. 緊急事態が発生した場合に連絡がとれるよう、事前に家族の理解と承諾を得る。

6 事故例から学ぶリスクマネジメント

1 屋外での事故例と事故防止

1. 公園でのけが

すべり台の斜面を登ろうとしている子どもの腕を引っ張りすぎ、脱臼をさせた。

公園のブランコで遊んでいたとき、子どもがブランコから落下し背中を打ち、負傷。

公園のすべり台から誤って落下。左腕負傷。

公園で子どもが犬と接触。犬に顔をなめられた子どもの目がしばらくして充血し顔が腫れてしまった。

子ども同士が遊具を取り合い、けんかをして、保育中の子どもを別の子どもが押し倒して骨折した。

砂場で遊びをしている時に、汚れた手で目をこすったら、目が痛くなり見えなくなった。

他の子どもの親と談話中、目を離れた際に子どもが道路に飛び出し、バイクと接触しそうになった。

子どもとおにごっこ遊びをしている時に、子どもの腕を引っばったら脱臼した。



リスクマネジメント

公園でも保育中は気を緩めず子どもへの注意を怠らないようにしましょう。

保育中は、子どもの傍らにいるよう心がけましょう。

子どもの年齢や発達状態に合わせ、遊具の扱い方や遊ばせ方を考慮しましょう。

ブランコは、子どもが落下しないよう注意しなければいけません。

よそ見をして子どもから目を離さないようにしましょう。

野生動物や見知らぬ人の連れた動物に、直接触る行為をさせては危険です。

遊びに夢中になって子どもの腕を力任せに引っ張るのは、やめましょう。

2. 路上でのけが

公園からの帰路。子どもが石につまずき、駐車中の車のマフラーに額をぶつけ2針縫うケガを負った。

児童保育からのお迎えの帰宅途中、子どもが誤って転倒。額を負傷。

子どもと散歩中、突き出た看板の角に子どもの額がぶつかり負傷。



リスクマネジメント

道路の横断や歩道を歩行する際には、周りの状況をしっかり判断しながら危険箇所は避けて歩きましょう。まず前後左右にしっかり気を配ります。

子どもとの距離を空けてはいけません。乳幼児とはしっかりと手をつなぎましょう。

子どもの足取りが頼りない場合や手をつなぐことを嫌がる場合には、直ぐにベビーカーに乗せるか、おんぶ紐を使用しましょう。保育者の両手を塞ぐ、抱っこは厳禁です。

児童の場合は、交通安全ルールを守らせ一緒に並んで歩行させるか縦列で距離を空けずに歩行しましょう。

車の交通量の多い場所での子どもの受け渡しの場合は、子どもが保護者を後追いついて自動車事故に巻き込まれるケースもあります。安全な場所を選びましょう。

3. 運転中のけが

子どもを車に乗せ、駐車場でバックしていた時、子どもがドアを開けてしまい落下、負傷。

自転車に子どもを乗せ走行。子どもが誤って落下、顎を打ち、前歯が陥没。



リスクマネジメント

子どもを自転車に乗せふたり乗りをすることは、車や自転車、バイク、人との接触が原因による横転事故が多くて大変危険です。保護者からの依頼でも、きっぱり断りましょう。

子どもを車に乗せる際は、チャイルドシートやシートベルト着用が必要です。

車のドアは子どもの手で開閉ができないよう完全ロックが必要です。子どもの座席側の窓は走行中、絶対に開閉作業しないようにします。

運転中に子どもが泣いて騒ぐ場合は、直ちに駐停車できる身近な場所を探し、一旦停止して子どもの気持ちを落ち着かせましょう。

走行中子どもに食物や飲み物を与えないようにしましょう。誤飲や嘔吐の原因になります。食物や飲み物を与える際には、車のエンジンを止め、傍らに付き添って飲食させましょう。

2 室内での事故例と事故防止

1. 扉付近でのけが

母親がお迎え。子どもが勢いよく扉を押したため、扉が壁にあたり弾みで扉が外れ、子どもの頭に扉がぶつかり負傷。

子どもが閉めたドアに、他の子どもの指がはさまり負傷。

訪問先の玄関の扉を閉めた時、子どもの左小指をはさみ骨折。

児童館へ子どもとでかけ、館内のドアに子どもの額をぶつけ負傷。

扉付近ではしゃいでいた子どもがすべって転倒。ガラス扉に足でつまみ、割れたガラスで負傷。



リスクマネジメント

扉の開閉時には、子どもを前に立たせ、大人の手で扉を開け、閉める際は、斜め後ろに子どもを立たせて、扉に直接子どもの手がかからないようにしましょう。

扉の開閉頻度が多い場合は、はじめから扉を開けた状態で固定しましょう。ストッパーがない場合は、簡易的に留められるように工夫します。

保育中は、子どもの早い動きに対応できるような態勢を取りましょう。身軽に動ける服装であることも重要です。

部屋を走り回る子どもには、注意が必要です。保護者や来訪者が来る時間帯には、扉付近に子どもが駆け寄らないような配慮しましょう。

ガラスの扉は危険です。木製の丈夫な素材にしましょう。

扉付近での遊びは禁止しましょう。

2. 落下や転倒のけが

子どもがテレビ台に乗りテレビごと落下。左手がテレビの下敷きになり負傷。

子どもが室内の台に登りおもちゃを取った時にバランスを崩し転倒。ガラスにぶつかり右耳5針縫うケガを負った。

訪問先の室内。コタツの上からソファに子どもが飛び移ろうとしてひっくり返り、腕を骨折。

子どもを椅子に座らせ、目を離れた際に椅子から落下。顎を打撲。

子どもが椅子の上に立ち上がった際、椅子ごと倒れ足を負傷。

子どもが椅子から立ち上がった際にふらつき、椅子の角に左目上をぶつけ負傷。

足こぎ自転車で遊んでいた子どもが誤って転倒。たなに額をぶつけ負傷。

子どもをあずかる際、母親を後追いした子どもが転倒。まぶたを負傷。

子どもが転倒した際に舌を噛み2日間入院。

子どもが誤って倒れ、ガラスにぶつかり額を負傷。

玄関のチャイムの音に子どもが驚き走り出し、転倒。テーブルの脚に左まぶたをぶつけ打撲。



室内で部屋の片付けをしていたら、画用紙に足をすべらせて机の脚に右手首をうちつけ、負傷。

体育館内の階段で子どもが滑り、額を負傷。

リスクマネジメント

テレビ台やテーブル、コタツ、ソファや椅子の上に子どもを立たせては、絶対にいけません。

室内の床に紙や遊具が散乱していると、子どもが転倒する可能性が高くなります。

散らかした場所で走り回るのは危険です。子どもと過ごす室内の整理整頓は、きちんとしましょう。

子どもが人見知りや後追いが激しい時期には保護者と相談をして、子どもへの対応について決めましょう。

安全環境が整っていない訪問先など、安全確保がとれない環境である場合は、安全第一を前提に子どもの受け渡し方法を保護者と相談しましょう。

3. 食事準備中と食事中的けが

子どもが椅子に登り、炊飯器の向こう側のパンを取ろうとして、炊飯中のジャーの蒸気で左手を火傷。

食事中、食材が子どもの気管支に詰まり、入院治療。

昼食用のうどんを配膳した時、うどんの汁が子どもにかかり火傷を負わせた。

哺乳瓶にお湯を注いでいる時、手を滑らせお湯が子どもの股にかかり火傷を負わせた。

フォークを持ったまま席を立った子どもが転倒し、目の上にフォークがささり、重傷をおった。

子どもがぐずっている時に、食事の支度のため目を離した。しばらくして子どもの様子を見ると、意識を失っていた。



リスクマネジメント

湯沸しポットや炊飯ジャー、オーブントースターなどの加熱する台所用品は、子どもの手が届かない場所へ置きましょう。

椅子の上に子どもを立たせるのは絶対にしてはいけません。

保育環境が万全でない場合は、絶対に子どもから目をはなしてはいけません。

食事の支度中、調理や食品の温めなどは簡単に済ませましょう。

環境や子どもの状況を考えて行動しましょう。

お膳立て（茶わん、箸、食べ物、飲み物などの配膳）が全て整ってから子どもを席に座らせましょう。

子どもの頭上や身近で、熱いご飯や汁物などを器に移したり、運んだりしては絶対にはいけません。もちろん調乳なども同様に充分注意しましょう。

はしやフォーク、ナイフなどを持たせたまま席を立たせてはいけません。

子どもの機嫌や体調が悪い時は、食事の支度に時間を掛けるのはやめましょう。

まとめ

発生事故やけがの原因から学ぶ保育環境の整備

乳児や子どもがいる環境で、多く発生している事故やけがの例をもとに、その原因を追求し同じ過ちを二度と繰り返さないため、保育環境の整備を行います。また、新たな事故を発生させないために、ヒヤリ・ハットの事例を見逃さず、リスク管理を実践することを忘れないよう、日々心がけましょう。

どんなに気をつけていても完全に事故を防

ぐことは、大変困難です。しかし、他人の子どもの命を預かる立場である以上、絶対に事故は避けなくてはならず、子どもにけがを負わせることは、許されないことです。地域保育提供者の怠慢や気の緩みから事故をおこした場合には、管理責任が問われます。安全確認や環境整備は、気を引き締めて必ず実践しましょう。



やけど

1. テーブルの上に熱いものを置かない、また、テーブルクロスは敷かない。
2. 子どもを抱いたまま調理や食事、お茶を飲んだりしない。
3. 炊飯器、ポット、トースター、アイロンを子どもの手の届くところに置かない。
4. お風呂やシャワーをする時は、お湯の温度を直前に確認する。
5. 湯たんぽやカイロは長時間使わず、直接子どもに触れないようにする。
6. コンセントカバーを必ず使用する。
7. マッチ、ライター、クラッカー、ろうそく、線香を子どもの手の届くところに置かない。



誤飲・窒息

1. タバコや灰皿、コイン、乾電池、ボタン、植木鉢、子どもの口に入りそうなものは、子どもの手の届くところに置かない。
2. 引出し、戸棚、冷蔵庫には、ストッパーをつける。
3. 薬箱や化粧ポーチ、バッグ、小物入れを放置しない。



指をはさむ

1. ドアの開閉が出来ないようにストッパーを、ドアの隙間には、指がはまらないようにカバーをつける。
2. 家具の引出しや冷蔵庫の扉には、安全機具をつける。
3. ドアや引出しの開閉時には、安全を確認し、子どもの指が挟まらないよう注意する。



溺れる

1. 水遊びをする時は、子どもから目を離さない。
2. トイレや風呂場を遊び場所にさせない。
3. 風呂場に子どもだけ置き去りにしない。
4. 風呂場には外鍵を掛けて子どもが進入できないようにする。
5. 洗面台や洗濯機付近に踏み台や籠やローチェスト、ゴミ箱を置かない。
6. 洗濯機は常に空にし、水を残さないで蓋を完全に閉める。



転落・転倒

1. ベビーベットの柵は必ず上げて、ロックする。
2. ベランダへの窓の鍵は二重にし、窓を開け放したまま子どもから目を離さない。
3. 窓やベランダには柵を設置する。
4. ソファや段差のある場所に赤ちゃんを寝かさない。
5. 段差のある玄関や階段には柵を設置する。また、滑り止めテープを貼る。
6. 玄関や部屋の出入り付近にカーペットや敷物を敷かない。
7. ベビーカーやベビーチェアに乳幼児を座らせる時にはシートベルトを着用する。

8. 子どもに、はし、フォーク、歯ブラシ、棒つきキャンディーなどを持たせたまま歩かせない。

9. テーブルや家具の角にはカバーをつける。



熱中症

1. 日差しが強い日に外出する時は、子どもに帽子を必ずかぶせる。
2. こまめに水分補給させる。
3. 暑い日の外出は控え、炎天下での長時間の遊びはさせない。
4. 車の中に子どもを置き去りにしない。
5. 使用する部屋を締め切りにせず、室温管理に気を配り、随時涼しい空気の入替えを行う。



交通事故

1. チャイルドシートを正しく使用する。大きな子どもの場合はシートベルトを着用させる。
2. 車内に乗車後、ドアと窓のロックができていないかを必ず確認する。
3. 運転中は、携帯電話やメールをしない。
4. 車内では、子どもに飲食をさせない。

私の「ヒヤリ・ハット」MEMO

日付	事例	注意点
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		
月 日		

ご自身のヒヤリ・ハット経験を記録し次回からのリスクマネジメントに活かしましょう

発行日：2007年9月20日

第2版：2008年8月20日

企画制作出版：特定非営利活動法人 日本チャイルドマインダー協会

発行：株式会社エヌシーエムエージャパン

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-39-11-1304

TEL:03-5371-3196 FAX:03-5371-3070

URL: <http://www.hoiku.co.jp/>

本書は、平成19年度『ビジネス性実証支援事業（育児支援関連サービス分野）』に関して、経済産業省、特定非営利活動法人健康サービス産業振興機構の委託により当コンソーシアムにて企画制作出版したものです。

